

ボランティアの皆さん いつもありがとうございます！

ボランティア活動を通し、誰かの役に立つことが嬉しく自分にとって「生きがい」になっているという声をたくさん聞きます。しかし、コロナ禍ボランティア活動再開のタイミングがつかめず、先行きの見通しがつかない時期もありましたが、模索しながら活動を再開した団体や個人ボランティアも多くいます。

改めて「ボランティア活動の良さや課題」について考えます。



ボランティア活動の良いところ

- ◆ ボランティアを通して人の役に立てるだけでなく、「仲間づくり」や「居場所」の場となり、社会と関わることができる
- ◆ 楽しさが見つかるキッカケづくりにもなる
- ◆ 自分の「好きなこと」「得意なこと」を活かせる
- ◆ ボランティア活動に「大きい」「小さい」は関係なく、顔の見える関係がつけれる
- ◆ 今、何が必要とされているのかを考えながら、自分の意志で地域にとらわれず広い範囲で活動できる
- ◆ お金では得られない出会い、発見、喜びや感動が得られる

今後の課題と改善について

- ◆ 活動の担い手不足
→ 参加のキッカケづくりを増やす
- ◆ 会員の高齢化に伴う活動の縮小
→ 部分的なお手伝いをお願いする
(車出しをしてくれる人、片づけに来てくれる人、写真を撮ってくれる人...)
- ◆ 他の団体と一緒にコラボする
- ◆ 福祉教育や生涯学習に協力する



私たちボランティアの活動が、地域の支えあいになり、巡り巡って繋がり潤滑油としての役割を果たしているかもしれません。また、顔の見える、触れ合える交流が、孤立を防ぎ安心を作る基盤となり、防犯防災にもつながる小さな歯車となって地域のセーフティーネット(社会的な安全網・安全策)としての役割を果たしながら社会へとつながっていきます。

ボランティア活動をするとき大切なこと

- ◆ できることから、無理をしない ◆ 約束・秘密を守ろう ◆ 安全対策に注意しよう
- ◆ 謙虚になろう ◆ 周りの理解と協力を得よう(まずは家族から)
- ◆ 相手のニーズ(求めていること)にあわせ活動しよう ◆ 学びを大切に、自分を成長させよう



困ったときは助け合う。この助けあいこそがボランティアの始まりです。ボランティアは特別なスキルがなくても始められます。また、活動に大きい・小さいはなく「社会の役に立ちたい」という思いは、どれも尊いボランティア精神です。ボランティア活動は、誰かを助けるだけでなく、自分自身も豊かにする行動です。小さな1歩が、社会全体をより良い方向に導く大きな力となります。身近な顔の見える関係づくり、ボランティアだからできる縁づくり、いろいろな人と手をつなぎ、誰もが自分らしく豊かに暮らせる社会を目指して「できること」を考え行動していきましょう。



「誰かのために何かをしたい！」
私たちと一緒にボランティア活動をしてみませんか？

編集後記

過去の災害を振り返るとボランティアの重要性を改めて感じます。人と人との繋がりがますます大切になるなかで、その絆をしっかりと繋いでいくために私たちにできることは、すべての世代が共に繋がり、楽しく活動ができるための場を作り、若い世代が活動に参加しやすい形を作ることだと思います。



ボランティア情報紙

はらっぱ

第51号 2025年2月3日発行
編集・発行
佐倉市ボランティア連絡協議会(V連)
はらっぱ編集委員会
〒285-0133 佐倉市海隣寺町87
佐倉市ボランティアセンター内
TEL 043-484-6198 FAX 043-486-2518



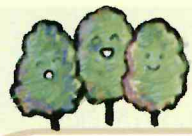
作画・大橋カズミ

「V連」って知っている？

佐倉市ボランティア連絡協議会(V連)は、佐倉市社会福祉協議会にボランティア登録している団体や個人の中で、V連の趣旨に賛同した団体・個人ボランティアで運営する組織です。会員同士の横のつながりを大切に、様々な行事を通して交流や情報交換をしています。1つの団体、一人のボランティアではできないことも、連携することで新たな活動の幅を広げています。ぜひ一緒に活動しましょう。



V連ホームページ



ボランティア連絡協議会 2024 年度の活動を振り返ってみました!



第1回運営委員会

5月11日(土) 志津コミュニティセンター

【令和5年度】活動・決算報告【令和6年度】活動計画・予算案を示し、全て承認頂きました。

第2部では、佐倉市ろう者協会会長 佐藤近延氏を講師に迎え『楽しい手話講座』を開催しました。

手話サークル「希望」のサポートで基礎的な日常会話「こんにちは」などの単語や会話を学びました。また、手話で自分の苗字を覚えてもらい、参加者の皆さんと楽しく披露しあいました。



手話を体験



交流会(所沢市V連)

10月5日(土) 佐倉市中央公民館

埼玉県所沢市ボランティア連絡協議会(以下所沢V連)の皆さんと交流会を開催。所沢V連総勢23名の皆さん一人ひとりの自己紹介の後、お互いのボランティア活動の歴史と現状、今後についての報告と質疑応答で親睦を深めこれからも互いに協力していくことを話しました。

やはり課題は、高齢化と次世代への継承であり、どの地域においてもボランティアの現在抱える問題は共通なのだと痛感しました。



印旛地区ボランティア交流会

10月23日(水) 酒々井町中央公民館



成田市、八街市、富里市、栄町、酒々井町、佐倉市の6市町が集まり近隣V連の印旛地区交流会が開かれました。県V連協会長渡邊氏の講話後、ボランティア活動の現状や次世代へどう繋いでいくかなど、日々の活動で感じる課題について話し合いました。

「会員の高齢化や担い手不足、コロナ禍を経て活動に戻れない状況や継続の難しさ」「企業とコラボ」「新会員獲得にどうしたらいいか?」など、それぞれの現状やアイデアを共有することができました。

バス研修会

8月28日(水) 旭市防災資料館



V連会員によるバス研修会で『旭市防災資料館』へ行き、2011年3月11日の震災の話をお聞きしました。避難階段を登り屋上で館長より津波到達場所の説明を受けました。

午後2時46分の地震の後、一旦は避難した方が自宅の後片付け等で戻られ、3回目の津波で多くの被害があったそうです。5時30分で止まった時計が印象的でした。

その教訓から、現在も定期的に地域の住民による避難訓練が行われているそうです。

研修会

11月2日(土) 千代田染井野ふれあいセンター

「今、求められるボランティア活動とは」と題し、順天堂大学スポーツ健康科学部 松山毅氏をお迎えして、講和とグループワークで楽しく、ためになる意見交換会となりました。「集まった皆さんのボランティア活動の原動力は?」の問いにグループごとに自己紹介を兼ねて話し合い、ボランティアの原点について見つめ直しました。

講和では、コロナ後の現状や活動の担い手不足についてなどの課題について、また、「ボランティア活動に大きい小さいはない」「つながる、繋ぐ、身近な顔の見える関係づくり」「ボランティアだからできる縁づくり」など話していただきました。

今後は健康に留意し、できることをやり続けていきたいと思います。



市民活動発表会 2024

(佐倉市市民公益活動サポートセンター主催 45団体参加)
12月1日(日) 志津コミュニティセンター

テーマ: ~つたえる・ひろがる・私たちの活動~

【車椅子体験】 活動発表が始まる前から体験したいという方もいて大人気。「前から体験したかった。思ったより怖いね」「車椅子に座ると見える高さも違っていいね」と話していました。

【アイマスク体験】 全く見えないので、坂道、アスファルト舗装等が思った以上に不安で歩きづらく大変のようでした。

【ピクトグラム体験】 マークの意味を間違えて覚えている方もいて、お話を通して1つでも正しく知っていただくことができてよかったです。

たくさんの方が体験に参加してくださり、とても良い活動発表になりました。



車椅子体験



ピクトグラム体験

V連は体験コーナーで参加

佐倉市障害者作品展「ふれあいギャラリー」

(佐倉市主催)

12月12日(木) ~15日(日) 佐倉市立美術館

『作品を鑑賞し障がいについて理解を深めてもらう』機会として、障がいのある方が心を込めて創作した絵画、書、手芸、造形等167点の作品が展示されました。

ある出展者のご家族が「この作品展は障がいのある方の文化芸術の発表の場であり、一人ひとり歩んできた道があります。会場にいる間だけでも思いを馳せていただき、また、皆さんの近くにいる誰かに心を寄せるキッカケになって頂けたら幸いです」とお話しされていました。

来館者から「素晴らしい」「感動した」「元気をもらった」など温かい感想をいただきました。



作品の展示を手伝っているところ

実行委員として協力

第2回運営委員会

12月8日(日) 志津コミュニティセンター



第1部では、令和6年度活動報告(4月から12月1日まで)を各担当者より報告を行いました。

第2部は「ボランティア連絡協議会(V連)の活動を見直そう」というテーマのもと、今実施している活動をどうしたらV連らしく続けていけるかを、グループごとに話し合いました。

「悩まないためにスタイルを決める」「V連活動の中で交流会ができると良い」「取材に行くことでグループの良さや違いを知ることができた」「ボランティアの種を植える」などの話ができました。

「無理せず、悩まず、外へも目を向けつつ、原点を忘れずに進みましょう」と皆さんから前向きな言葉をいただきました。

第43回 ボランティアのつどい

2025年2月11日(火・祝) 志津コミュニティセンター

今年度のボランティアのつどいは、日頃ボランティア活動をしている仲間と一緒にバラスポーツの「ポッチャ」を楽しみます。

また、デフ(きこえない・きこえにくい)アスリートのための国際スポーツ大会「東京2025デフリンピック」が11月に開催されるので、デフリンピックの紹介もします。

第43回ボランティアのつどい



2025年2月11日(火・祝)
9時半~12時半(受付9時10分~)
於: 志津コミュニティセンター 大ホール
主催: 佐倉市ボランティア連絡協議会
共催: 佐倉市社会福祉協議会
お問い合わせ: 佐倉市ボランティアセンター
TEL: 043-494-6198 FAX: 043-496-2518



ピクトグラム (右のマークは、内閣府の「障がいに関するマークについて」から抜粋) 単純化された図形で特定の意味を表現する記号です。言葉を使わずに情報を伝えられるため、言語の壁を越えたコミュニケーションツールとして活用されています。



ヘルプマーク

義足の使用や内部障がい、妊娠初期、難病など、外見では判断できない援助や配慮を促すシンボルマークです。見た目には障がいの種類や何が困難であるかわからないことが多いため、席を譲ったり、困っている様子があれば声をかけたりするなどの積極的な配慮が必要です。



身体障がい者マーク

普通自動車免許を有していて、四肢に障がいがある人が車に表示するシンボルマークです。表示は努力義務です。危険防止などの正当な理由がない限り、幅寄せや割込みが禁止されています。違反した場合、道路交通法により罰金、行政処分として1点減点となります。



聴覚障がい者マーク

普通自動車免許を有していて、聴覚に障がいがある人が車に表示するシンボルマークです。表示は義務であり、違反すると反則金を課されます。クラクションが聞こえないため見かけたら早めに減速するなどして車間距離を取る必要があります。また、幅寄せや割込みをすると罰金が課され、1点減点となります。